様式1 # 平成 30年度　山梨県立甲府西高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自主自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと、広く社会で活躍する人材を育成する。

山梨県立甲府西高等学校 校長　　手島　俊樹

本年度の重点目標	
	1　単位制を活用した個に応じたきめ細かやな教育活動の推進
	2　学習と部活動の両立支援、活力に満ちた学校づくりの推進
	3　教育相談体制の充実を図るとともに、適切な生徒理解に努める
	4　家庭・地域・関係機関との連携及び教育活動の周知

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	
4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

自　己　評　価

本年度の重点目標				年度末評価（2月18日現在）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	単位制を活用した個に応じたきめ細かやな教育活動の推進	従来の教育課程に加え、国際バカロレア導入に向けて生徒の多用な進路選択の可能性が広がる工夫改善を進めるとともに、平成31年度の教育課程の編成に生かす。 相互授業参観や授業公開、IB教科導入に向けての研修等を通じ、65分授業の特性を生かして、探究的活動を意識した授業改善及び評価の工夫を図る。 各教科・年次において適切な課題及び効果的な課外学習の在り方を検討し、生徒の自主的・主体的な学習姿勢を育む。	学習環境に関する生徒アンケート 教員の自己評価、教員相互の授業評価シート、生徒授業アンケート 教員の自己評価、教員相互の授業評価シート、生徒授業アンケート	・個々の進路希望や習熟度に応じた履修科目選択により生徒はおおむね自己の目標に向かって学習に取り組めたものと思われる（生4，5保5教14，43参照）。 ・生徒の前向きな学習姿勢を育むための授業改善や学習評価に関してもおおむね達成できたと考える（生6，8保6教15，18，19参照）。 ・授業アンケートでは、「授業が分かりやすい85%」、「学力がついた87%」と高評価を得ており、学習指導の状況は良好である。 ・バカロレア導入については、認定確認訪問が無事終了し、今後の見通しを持つことができた。	A	・これまでの教育課程に基づく学習指導をさらに改善していくとともに、国際バカロレア導入に向けて、探究的な学習を意識した授業改善を一層進めていくことが必要である。 ・評価においては、生徒の探究心を深めるために、多面的かつ継続的な評価について今後さらに研究を進めていくことが求められる。 ・課外指導や課題学習については、生徒の自主性を育むために、その目的をしっかり検証しさらに効果的なものとしていく必要がある。
2	学習と部活動の両立支援、活力に満ちた学校づくりの推進	本校の「部活動に係る活動方針」に従い、計画的かつ充実した活動を目指し、学習と部活動の両立を図る。また、学校行事においても、各行事の目的を明確に示し、教育効果がさらに高まるよう努める。 総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育や道徳教育の視点から全ての教育活動の中で生き方あり方を考えさせるとともに、課題研究論文の指導を効果的に進める。	学校評価アンケート 学習環境に関する生徒アンケート 生活実態調査 学校評価アンケート 学習環境に関する生徒アンケート 生活実態調査	・学習と部活動の両立については、生徒・保護者それぞれ7割以上が高評価となっているが、何らかの課題を抱えている生徒も少なからずいるものと思われる（生15保14教33参照）。 ・キャリア教育については鳳凰学等を中心とした指導により高評価となっているが、道徳教育については教員間の認識に課題が残る。（生24教11，12，31，46参照）。	B	・部活動の加入率が非常に高く、生徒は積極的に活動に取り組んでいるが、一方で学習との両立に悩む生徒も多い。効率的な活動を促すとともに、悩みを抱える生徒が早期に相談できる環境を整えることも必要である。 ・生徒の将来を見据え、学校教育全体において道徳教育の観点を取り入れた指導をさらに進めて行く必要がある。
3	教育相談体制の充実を図るとともに、適切な生徒理解に努める	管理職、年次主任、生徒指導主事、保健主事等で構成する校内委員会を有機的に活用しながら個々の生徒の状況を把握し、指導のあり方について共通理解を図る。 教育相談やカウンセリングの体制について、生徒・保護者への周知に努め、個々の生徒の状況に応じ保護者と連携しながら生徒一人一人の自己実現が図れるように働きかける。 業務改善を進め、生徒一人一人と向き合う時間を大切にし、教育活動全般の活性化に努める。	学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・教育相談については、教員の指導姿勢に対しては、一定の評価を得ている。（生1，2，13保15教27，28，29参照）。 ・生活実態調査を通じて、いじめ案件についても軽微な段階で対応できた（教25参照）。 ・定時退校推奨日を設けるなどして業務改善を進めてきたが、職員の月の時間外勤務の平均が44．3時間である（教9参照）。	B	・個々の教員が生徒に寄り添う指導に努めている一方、教員相互の相談体制について今後さらに協力を進めて行く必要がある。 ・相談室の利用が前年比50件増加であり、今後ますます体制の整備を進める必要がある。 ・業務改善については、県の施策に基づく対応を一層進めるとともに、事務処理量の軽減を図るなど校内での業務精選を積極的に図っていく必要がある。
4	家庭・地域・関係機関との連携及び教育活動の周知	開かれた学校づくりをさらに進めるため、保護者への授業公開や、学園祭の地域住民への公開、及び異校種交流を促進する。 情報発信ツールとして学校ホームページをさらに充実させるための工夫改善に努める。 ボランティア活動等、地域に積極的に関わる生徒主体の活動を推進する。	学校評価アンケート 参加者数 参加アンケート 志願者数 学校評価アンケート HPへのアクセス数 志願者数 学校評価アンケート 参加者数 参加アンケート	・HPや各種便り等による生徒・保護者への情報発信や、授業参観を通じての保護者の学校理解には、いずれも高評価を得ており、開かれた学校づくりについては一定の理解が得られている。 ・生徒のボランティアに対する意識についてはさらなる改善が望まれる（生12，26，27，保3，7教13，21，35参照）。	B	・学校の情報発信については、生徒・保護者から好意的に受け取られており、今後これを維持するとともに、国際バカロレア導入に際して、認定後には、中学生及びにその保護者を中心に広く県民に情報発信していく必要がある。 ・ボランティアについては、地域貢献に積極的に関わろうとする生徒の意識向上をさらに推進していく必要がある。

学校関係者評価

実施日　（平成31年3月10日）

評価	意見・要望等
4	・履修科目など、個に対する教育課程編成による65分授業の良さを意識した授業改善、多面的な学習の見取り、といった一連の流れの中で探究的な取組が行われているのは良い。ただし、実践面になると、探究的な学習とそれを見取る多様な評価のあり方については、更なる組織の充実が求められる。 ・生徒の授業アンケートで高評価が出ていることは、教員の授業改善の努力が実を結んだ結果だと思われる。 ・あらゆる課題に対して、今年度中に改善策をある程度決めておき、新年度の取組がスムーズに開始できるようにしておく必要がある。 ・授業の中で将来に向けての指導を取り入れていく必要がある。 ・国際バカロレアはこれから社会活躍する人材を育成するためには良いプログラムだと思う。今後一層の研究を進めていただきたい。
4	・成績にこだわらない、楽しむ部活動があってもよいのではないか。 ・n-stageや各種便り、生徒アンケートから、生徒が様々な学校行事で生き生きと活動している姿や部活動での頑張りが分かる。 ・鳳凰学を中心としたキャリア教育については、生徒も教員も評価が高く、成果を上げたものと思われる。 ・道徳教育については、まだ意識の高まりが感じられない。 ・キャリア教育と進路指導の違いを意識する必要があるのではないか。 ・学習と部活動の両立は大半の生徒はできているようだが、悩んでいる生徒への支援体制をより充実させる必要がある。 ・土曜講座は生徒の可能性を引き出す意味からも続けてほしい。
4	・心身共に健康な生徒の育成のためにも、教員相互の協力のもとに、相談体制をより充実したものにしていただきたい。悩んでいる生徒も多いはずである。 ・教員の時間外勤務の改善は非常に大切なことである。国際バカロレア導入後の負担増が懸念される。 ・社会、教育の変化がより複雑になり対応が難しくなっている。一人一人に寄り添ったきめ細かい対応が一層必要になってくる。 ・教育相談体制は整備されているが、それを利用しやすいとは必ずしも言えないというギャップがアンケートからうかがえる。それを埋める取組が必要である。 ・情報共有、統一した指導方針などの連携がまだ不十分な面も感じられる。
3	・授業公開や広報活動が適切に実施されている。 ・保護者アンケートで「無回答」の率が低いことからも情報発信が良く行われていて、学校の教育活動への理解が高まっていると感じられる。 ・ボランティアについては、地域が高校生に求めているものは何かという把握が必要である。 ・高校生にとって地域活動は意外に理解されていない。各地域の行事1つでも良いので、無理のない範囲で参加する指導も必要である。 ・学校からの情報発信はとても分かりやすいと思われる。ボランティア活動には是非積極的に参加してほしいと思う。

※表中の「生4」は生徒アンケートの項目4、「保5」は保護者アンケートの項目5、「教15」は教員アンケートの項目15を表す